

都市交通を支えてきた 歴史の重みを実感する



江戸時代、現在の太田地区と雫石川対岸の盛岡は渡し舟で往来していましたが、明治43年(1910)に「沢田橋」が架けられました。その後、度重なる雫石川の氾濫により、沢田橋は何度も修復され、昭和10年(1935)には、当時東北一長い鉄筋コンクリート橋として旧太田橋が完工しました。そして、都市の発展に伴い、増え続ける交通量と老朽化に対応するため、現在の橋へ架けかえられ、昭和61年に全線が開通(全長493.1m)しました。

太田橋には、南部藩主が選定したと伝えられる「盛岡八景」のうちの「太田の落雁」が立見台高欄に表現されているほか、「沢田の夕照」と渡し舟が親柱にデザインされています。

